

日印産連表彰 受賞者の紹介

日印産連表彰は、長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する制度で、「9月印刷の月」の記念事業として表彰が行われる。

本年度は、印刷功労賞 11 名、印刷振興賞 17 名が表彰を受けた。

印刷功労賞

阿部 茂雄

光村印刷株式会社
代表取締役会長

印刷工業会



受賞理由

平成 30 年 5 月に印刷工業会の理事に就任、令和 2 年 5 月に同会常任理事に昇任。平成 30 年 6 月に（一社）日本印刷産業連合会の理事にも就任し、団体活動を通して印刷業界の発展に尽力する。また、昨年は日印産連 GP 認定にも社として協力し、同社 4 事業所が認定され事業の拡大に寄与した。印刷工業会部会にも多くのメンバー派遣等積極的に支援した。

須田 勝一

株式会社須田製版
会長

印刷工業会



受賞理由

同社は 1990 年 11 月 北海道からは初めての印刷工業会の会員として入会した。その後須田幸男氏が理事に就任、幸男氏の後須田勝一氏が 2010 年 5 月に同会理事に就任。2017 年 5 月迄理事を務められ後任の須田守社長に理事を引き継がれた。その間遠隔地でありながら総会、懇親会等にも多く参加され、印刷工業会活動に理事として積極的に支援した。

橋本 唱一

文唱堂印刷株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成 22 年度から令和元年度まで 10 年間、全印工連の常務理事を、平成 22 年度から 2 年間、東京工組の常務理事を、さらに平成 24 年度から 8 年間は、東京工組の副理事長の要職を務める。この間、全印工連においては、環境委員会委員長や資材対策担当役員を歴任、また、日印産連においても常任理事や理事を務め、平成 25 年には労働安全衛生協議会の委員として、印刷事業所における健康障害防止対策のための活動を行うなど、印刷産業の振興・発展に尽力した。

印刷功労賞

黒澤 文雄

ライオン印刷株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成 24 年度から令和元年度まで 8 年間、全印工連の常務理事を、平成 28 年度から 4 年間、東京地区印刷協議会会長などの要職を務める。この間、全印工連において、組織共済委員会委員長として、「魅力ある組合づくり」を目指し、全国の組合員加入増強運動や各種共済制度加入促進キャンペーンを推進して大きな成果を上げるなど、印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

林 陽一

光ビジネスフォーム株式会社
特別顧問

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

平成 22 年より日本フォーム印刷工業連合会の常任理事、平成 26 年より副会長並びに関東フォーム印刷工業会の会長に就任し、その重責を担う。活性化委員会の新設、業界組織の多岐にわたる事業全般の運営に積極的に取り組み、円滑な運営と発展に尽力した。企業においても平成 28 年に印刷産業環境優良工場表彰を受賞。印刷業界の持続的価値向上を推進し、業界組織の活性化を目指して運営に寄与した功績は多大である。

岩下 登

株式会社登プリント社
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

平成 24 年より理事、副会長を歴任し、総務財政委員会、組織改革プロジェクト、経営委員会など各種委員会活動の中核として事業を普及推進した。平成 22 年には近畿地協会長として多岐にわたる組合運営に積極的に取り組み、地協、支部活動に大きく貢献した。グラフィックサービス業の振興と発展に寄与した功績は多大である。

中山 正敏

共同紙工株式会社
会長

全日本製本工業組合連合会



受賞理由

平成 20 年より理事ならびに宮城工組の理事長を務め、組合の事業運営により地域製本業の振興発展に貢献した。平成 23 年の震災に際しては、理事長として被災状況の把握や支援の前面に立ち、組合員企業の復旧復興に尽力した功績は顕著である。この間、組合の振興ビジョン普及に務め、製本業の取引慣行改善に寄与している。現在、全日本製本工業組合連合会 副会長、手帳製本専門委員会の担当副会長としての要職を務める。

杉 淵 好 美

株式会社プロセスレボ
代表取締役社長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



受賞理由

多年に亘り経営環境の激化に対応したビジネス展開を構築し、経営基盤の確立に努める傍ら、業界組織の要職を歴任、現在 GCJ 副会長・GC 北海道理事として活躍。北海道地区の業界組織の多岐に亘る事業全般の運営、振興に積極的に取り組み、円滑な組織の振興発展、維持に先導的役割に努める。組合事業の推進を通じて、組合員への情報提供、共有化などに寄与した功績は顕著である。

清 水 重 行

株式会社テクスチャー
代表取締役

全日本シール印刷協同組合連合会



受賞理由

全日本シール印刷協同組合連合会では1期2年副会長を務め、組織の強化に向けて組合員・会友の結束を図るべく活動に尽力した。また、日印産連への派遣委員として参画した価値創出委員会では、「じゃばにうむ」の活動において、当連合会の企業紹介・事例発表（地方創生・地域活性化成功事例）においてはリーダーシップを発揮して当連合会の企業を紹介してこの活動に取り組み成功させた。これらの活動から功労賞候補に推薦する。

山 下 雅 稔

株式会社巧芸社
代表取締役社長

全国グラビア協同組合連合会



受賞理由

日印産連において、2008年よりGP推進部会の委員に、2011年にはGP周知活動WGの座長に就任し、氏の友人である小山薫堂氏を2016年に「GP」PR大使に招き、翌年には「印刷と私」エッセイ・作文コンテストをスタートし、コロナ禍の昨年はエッセンシャルワーカーへ贈るポストカードを映像化。また、小山薫堂氏と千倉真理氏による「印刷と私」トークショーの動画を公開するなど、一般社会に印刷業界を周知した貢献は多大である。

堀 内 裕 司

株式会社光版技研
代表取締役

全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会



受賞理由

神奈川組合理事長として、研修会を積極的に開催するとともに若手経営者の育成に当たり、組合活動の活性化と若返りを果たした功績は大なるものがある。また横浜市技能職団体連絡協議会が毎年開催する「匠の小学校」において、神奈川組合理事長としてスクリーン印刷でトートバックなどを印刷する体験教室を統率し、多くの子供達が参加することでスクリーン印刷の一般への普及に寄与した。

印刷振興賞

鈴木 秀治

常磐共同印刷株式会社
代表取締役社長

印刷工業会



受賞理由

入社以来、製造職場に勤務、工場長、品質保証統括部長、監査室長を歴任、主要工場の効率改善、全社製造物の品質管理強化に取り組み、培われた知見により監査室でグループ全体の適正な業務運営に努めた。また、日印産連の技能五輪運営協議会の委員を務め、若手印刷人育成に果たした功績は大きい。

長谷川 明雄

日本製紙株式会社
紙バック営業本部
紙バック営業統括部技術調査役
印刷工業会



受賞理由

液体用紙容器生産工程における製版・刷版・印刷業務に長年携わり、特に製版工程ではアナログのフィルム集版から近年のデジタル編集まで精通した知識を駆使し、製版技術・印刷技術力向上に貢献した。

渋江 善彦

株式会社千代田グラビヤ
上席執行役員
産業資材事業部長
印刷工業会



受賞理由

渋江氏は、当社に41年の長きにわたり勤務し、建材・購買・産業資材と多岐にわたる事業領域において活躍して参りました。この間、建材事業部や購買部の構造改革や産業資材事業部の立ち上げに顕著な成果を挙げた他、2014年以降は執行役員として後進の育成と経営の近代化にも注力し、会社・業界へも多大な貢献をしてきたことを高く評価し、推薦するものです。

大古 淳

凸版印刷株式会社
生活・産業事業本部
環境デザイン事業部 営業本部長
印刷工業会



受賞理由

大古氏は株式会社トッパン・コスモ入社以来、建装材事業の営業を担当、中部、更に首都圏の部門責任者として役員を歴任し、建装材部門の振興と人材育成に尽力した。平成25(2013)年より印刷工業会建材部会長を務め、建装材業界全体の発展に貢献している。

松本 隆史

富士オフセット印刷株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成22年度からの12年間、全印工連理事および茨城県工組理事長を務め、平成30年度からは、関東甲信越静地区印刷協議会副会長として、全印工連各種事業を積極的に推進し、中小印刷業界の発展向上に大きく貢献した。

水谷 勝也

富士印刷株式会社
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成24年度からの10年間、全印工連理事、三重県工組理事長および中部地区印刷協議会副会長などの要職を務める。この間、業態変革事業やソリューションプロバイダーへの進化など各種事業の先頭に立ち、中小印刷業界の振興発展に果たした功績は顕著である。

齋藤 誠

川口印刷工業株式会社
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成 26 年度からの 8 年間にわたり、全印工連理事、岩手県工組理事長として中小印刷業界の振興発展に尽力する。平成 24 年度からは、全印工連組織活性化委員会委員として、各種共済事業の拡充に努め、全国の組合員企業の福利厚生の上上に大きく貢献した。

西村 孝之

第一フォーム印刷株式会社
代表取締役

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

長きにわたり東北フォーム印刷工業会の活動に尽力し、東北地区会長を各県持ち回りに決定した際には自ら率先してその任に当たり、混乱なく会の運営の道筋をつけていただいた。会長退任後も理事として継続してフォーム印刷業界の発展に寄与する企業活動を続けている。

福德 孝志

株式会社プロゴフス
シニアアドバイザー

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

2012 年、九州フォーム印刷工業会の事務局長に就任。2015 年 10 月には九州開催の持ち回り理事会の成功に尽力。また、2018 年中国・四国フォーム印刷工業会との合同研修会を企画・開催し、寺小屋プロジェクトの活動を推進。長年、事務局として尽力し理事会や研修会等を通じ、九州のみならず他地区の工業会会員企業との連携を深め、業界発展に大きく貢献された。

岡澤 誠

有限会社中溝グラフィック
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

平成 26 年より理事、副会長を歴任。コンテスト事業としてジャグラ作品展、年賀状デザインコンテストの普及拡大を図る。また、平成 24 年から 9 年にわたり神奈川県支部長として地域活性化、組織拡大に大きく貢献した。

原田 大輔

株式会社グッドクロス
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

平成 24 年より理事を務める。インターネット放送「ジャグラ BB」を会員のインフラと位置づけ、委員長としてコンテンツの拡充、普及に努める。平成 26 年より現在まで東京・城南支部長、東京グラフィックス副会長を務め、地域活性化、組織拡大に尽力した。

中島 誠一

有限会社中島製本所
代表取締役社長

全日本製本工業組合連合会



受賞理由

平成 26 年より理事ならびに東京工組 広報委員長に就任、現在は当委員会を管轄する副理事長を務める。この間、組合員に広く読まれる機関誌を標榜し、関連機械・資材事業者への取材など多数の新連載企画の掲載により組合員への情報発信に大きく貢献した。

印刷振興賞

中田 辰悟

株式会社一真社
代表取締役社長
日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



受賞理由

企業経営に従事する傍ら、業界団体組織の要職を歴任、GCJ 副会長・GC 東京副理事長として全国及び東京地区の厳しい業界組織の運営全般の改善に尽力するとともに、多岐に亘る組合の各種事業活動及び業務全般の運営に尽力した功績は多大である。

押条 重光

株式会社アイワ
会長



全日本シール印刷協同組合連合会

受賞理由

全日本シール印刷協同組合連合会では理事・環境委員を務めて環境優良工場の普及に尽力した。シール印刷四国協同組合では副理事長として組織の拡大に向けて組合員の増強と確保に向けて尽力した。その一環としてシールラベルコンテストではPR 活動を実践しながら、自らも参加して取り組んだ。これらの活動から振興賞候補に推薦する。

高松 忠彦

熱技術開発株式会社
監査役



全国グラビア協同組合連合会

受賞理由

大気汚染防止法に対応する為、排ガス中の VOC を光波干渉式を使い連続検知できる事により小型化した省エネ型乾燥炉と濃縮装置を開発し、約 1,500 ユニットに同方式が採用され、既設工場の VOC 削減に果たした功績は極めて顕著である。

野田 太志

太美工芸株式会社
取締役会長



全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会

受賞理由

高耐候・高発色の各種ステッカー制作では 40 年の豊富な実績を有しており、他社の追随を許さない技術力に定評がある。2020 年にはトヨタ自動車のプロボノ活動に参加し B to C 拡販に取り組み成果を得た。

安藝 和行

株式会社金川精巧堂
代表取締役



全日本光沢化工紙協同組合連合会

受賞理由

厳しい社会情勢により、組合員の退会に伴う収入の減少が顕著となる中、財政改善を図るべく監事に推挙された。組合事業にも協力を惜しまず、温厚篤実な人柄を以て若い役員を支え、広い眼識からなる助言は常に有益で、組合の改善に大いに尽力された。